

リコーグループがどのように環境経営を推進しているのかを、その全体像（3本柱と基盤）に基づき、説明しています。
このページでは、報告書の全体構成、2007年度の社会からの主な評価や掲載内容が簡単にご確認いただけます。

リコーグループの環境経営の全体像 （報告書の構成）

● 報告書の構成

この報告書は、リコーグループの環境経営の全体像と同じ構造になっています。

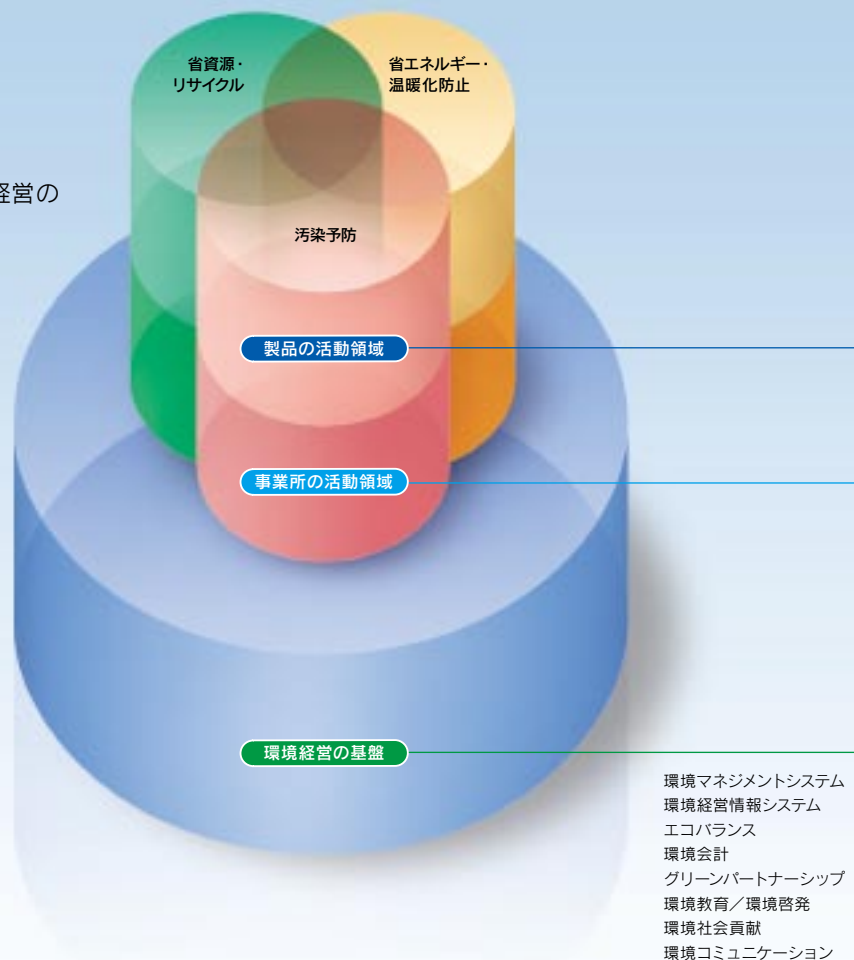
まず「環境経営の考え方」から始まり、

「製品に関する取り組み（3本柱）」

「事業所に関する取り組み（3本柱）」

「環境経営の基盤」

について説明しています。



■ 2007年度の社会からの主な評価

世界で最も持続可能な100社に選出

リコーは、カナダ・コーポレートナイツ社が、米国イノベスト・バリュー・ストラテジック・アドバイザーズ社の調査分析データをもとに評価する「世界で最も持続可能な100社」に4年連続で選出されました。

SRIインデックスへの組み入れ

日本においてリコー株式会社は多くのエコファンド、SRIファンドに組み入れられ、運用されており、モーニングスター社会的責任投資株価指数にも2003年の創設時以来組み入れられています。また米国ダウ・ジョーンズ社とスイスのSAMグループによるDJSI（ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス）に6年連続で、英国フィナンシャルタイムズ社とロンドン証券取引所の合併会社FTSEグループによるFTSE4Goodグローバル・インデックスに5年連続で組み入れられました。
[組み入れ状況は2008年5月1日現在]



リコーグループの環境経営とは環境保全と利益創出の同時実現です

リコーグループの「環境経営」は、環境保全と利益創出の同時実現を意味します。これを「環境技術開発」「全員参加の活動」によって推進しています。「製品」および「事業所」、それぞれについて「省エネルギー・温暖化防止」「省資源・リサイクル」「汚染予防」の3つの領域で活動を展開し、その活動を効率的に推進するために「環境経営の基盤」を整備しています。

《参照ページ》

- 私たちの目指す姿「Three Ps Balance」…………… 17ページ
- 持続可能な社会実現のためのコンセプト「コミットサークル」…………… 18ページ
- 超長期環境ビジョンに基づく環境目標・行動計画の設定…………… 19ページ
- リコーグループ16次環境行動計画…………… 21ページ
- 2007年度までの環境行動計画とその成果…………… 23ページ

特集 / 世界に広がる環境経営の環

現場で展開されるリコーグループのさまざまな環境経営活動をわかりやすくお伝えします。

リコーグローバルエコアクション…………… 11ページ



仕入先企業と進めるCO2削減活動…………… 13ページ



中国で展開する環境経営…………… 15ページ



■ 製品の3本柱に関する取り組み

- 製品開発の考え方と環境技術開発…………… 25ページ
- 省エネルギー・温暖化防止…………… 27ページ
- 省資源・リサイクル…………… 30ページ
- 汚染予防…………… 33ページ

TOPIC

新カラーPxDトナーの開発…………… 26ページ



■ 事業所の3本柱に関する取り組み

- 省エネルギー・温暖化防止…………… 37ページ
- 省資源・リサイクル…………… 43ページ
- 汚染予防…………… 47ページ

TOPIC

調達物流の環境負荷削減…………… 42ページ

INTERVIEW

[廃棄物処理委託業者に聞く]
株式会社オイルブランドナトリ様…………… 46ページ

[専門家に聞く]
みずほ情報総研株式会社様…………… 50ページ



■ 環境経営の基盤

- 環境マネジメントシステム…………… 51ページ
- 環境経営情報システム…………… 53ページ
- 環境経営評価手法…………… 55ページ
- 環境コミュニケーション…………… 61ページ
- 環境社会貢献…………… 67ページ

TOPIC

第2回 地球環境月間シンポジウム…………… 68ページ

地域社会の環境保全へのリーダーシップ…………… 74ページ

INTERVIEW

[お客様に聞く]
カリフォルニア大学様…………… 62ページ



TOPIC

読者の皆様の関心が高い活動やリコーグループ独自の活動については「TOPIC」として取り上げました。

INTERVIEW

読者の皆様に、活動をより身近に感じていただけるよう、活動に関わった人々のインタビューを掲載しています。